

▶優勝したみつやの里FC U・12（後列左は椎木町長）



春の訪れを告げる第21回サザン・セト大島少年サッカー大会が、3月25日から3日間の日程で行われ、今回も愛知県や兵庫県など遠方のチームを含む48チームが参加し交流を深めました。

期間中は概ね天候もよく、各チームとも好ゲームを展開。決勝戦はみつやの里FC U・12（広島県）と黒石フットボールクラブ（宇部）との対戦となり、延長戦の末2対0でみつやの里FC U・12が初優勝を飾りました。また、地元勢も久賀スポ少が8位に入賞するなど健闘をみせました。



## 浮島小タイムカプセル

浮島小学校の70周年を記念して、3月18日、この日行われた卒業式の後、同校の敷地内においてタイムカプセルの埋設式が行われました。

タイムカプセルには児童や地域の方々の手紙や作品などが多数入れられ、この日卒業を迎えた砂田萌花さんら全校児童11人の手で封入されました。埋設にあたり子どもたちは将来に向けて「仕事をがんばってほしい」「浮島が賑やかであってほしい」「またみんなと再会したい」など、それぞれの願いを発表。「みらいポスト」と名づけられたタイムカプセルは18年後の88周年で掘り出される予定です。

▶18年後、子どもたちは25歳から30歳に。夢が膨らみます。



## 「想いつなげる春」サザン・セト大島少年サッカー大会

地域おこし協力隊員 山崎千寿の  
しましまタイムズ

SHIMASHIMA TIMES

15

周防大島町定住促進協議会  
☎0820 (74) 1007

2月末のまだ肌寒いある1日、屋代の竹林で「竹きり大会」が行われました。これは毎年1回、地元の3団体が一緒になって周防大島の竹林整備を行うというものです。

今回は60名近くの参加者で、グループに分かれてヘルメットを被り、のこぎりを腰に吊るし急斜面の竹林へ分け入っていきましました。

竹を切るにはまず、倒す側に「受け口」を入れ、竹の直径の3分の1ほどまで水平に切込みを入れたら逆側から「追い口」を入れ、切り口を繋げます。倒すときは「倒れるぞ」と周りに声をかけ合いながら一本一本切っていきます。10数メートルもある長い竹がドスンと倒れ大迫力です。切り倒す作業は気持ちよく、参加者の方がお昼休憩もそこそこに早く切りたいという竹切りの血が騒ぐのも分かる気がしました。

整備が進むにつれて竹が密集して



▲次々と竹を切り、運び出す参加者

日陰で薄暗かった竹林も所々に日が差し込み綺麗になっていきます。

私は主に竹を運んでいましたが、上で竹を手際よく切るおじさま達の姿は頼もしく、年齢を感じさせません。竹を切り、支え、声を掛け合いながらリレーのように上から下へ運ぶ作業はみんながいるからこそできること。これからもずっと続いて欲しいイベントです。

さて、次回の海そうじは4月22日(土)午後3時から逗子ヶ浜で行います。当日は筏八幡宮で周防大島の農産物加工品を販売するアースデイのイベントがあります。お買い物帰りにご参加頂けると嬉しいです。

【P8ちよび塩クイズ答え】 ②約1.5g ④約2g ③約2.5g ①約3g  
でき上がりには具材の食塩もプラスされるため、さらに食塩相当量は多くなります。作り方に表示されている規定量より少なめに使用することでちよび塩になります。